

R8年農事メモ(第5号)

令和8年7月3日
白山石川営農推進協議会
石川県農業共済
松任市農業協同組合

白山石川グレードアップ米づくり運動実施中！ 夏季の高温×生育過剰！ 高温対策技術の徹底必須！

今回のポイント！

中干し後から出穂までは、約1ヶ月間の飽水管理

出穂から刈取り直前までは、

① 乾かさない ② ずっと溜めない ③ すぐ落とさない

水稻の生育ステージにあわせた適期防除の実施

水稻の生育状況 (6月23日時点)

※今後の気象経過により出穂期が前後する可能性があります。

- ・茎数は、すべての品種で平年・前年よりやや多い～多くなっている。
- ・ゆめみづほ、コシヒカリともに幼穂が確認されていることから、飽水管理へ移行する。

【出穂期の見込み (5月上旬田植え)】

品種名	出穂期
ゆめみづほ	7月13～17日
コシヒカリ	7月23～27日

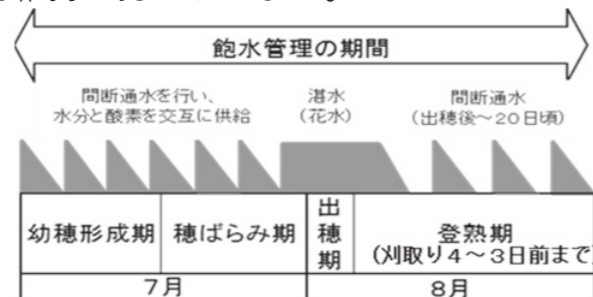
当面の栽培管理

1 水管理 ～飽水管理の徹底～

- ・中干し終了後は間断通水を実施し、徐々に飽水管理へ移りましょう。急激な湛水は、根の酸素不足による根腐れや下位葉の枯れ上りを生じさせるので、行わないでください。
- ・出穂前後は花水として湛水する。※溜めっぱなしを避け、水の入替えに努めましょう。
- ・飽水管理は登熟の後期まで実施し、稲体の活力維持に努めましょう。

ここにも注意を

- ・減数分裂期に低温(17℃以下)が予想される場合、深水にし、幼穂を保温しましょう。
- ・登熟期に高温が続く場合は、夜間通水を行い地温を下げるように努めましょう。
- ・強風やフェーンが予想される場合、あらかじめ十分に入水し、高温障害の発生を防止！



【北陸地方における向こう1か月の天候の見通し】 新潟地方気象台6/19発表 (6/21～7/20)

平均気温	降水量	日照時間
平年より高い見込み	平年並み～多い見込み	平年並み～少ない見込み

・向こう1か月の気温は高く、特に期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

2 肥培管理 ～分施肥系の穂肥(コシヒカリ)～

◎施用基準(分施肥系) ※幼穂長を確認し、稲の姿に応じた的確に施用すること。

「BB有機入松任穂波」

施用時期(幼穂長)	施用量(kg/10a)	葉色
出穂18日前 (10～15mm)	30	3.5

- ・葉色が基準程度で葉身は直立・・・基準どおり施用。
- ・葉色がやや濃い葉身は直立・・・基準より5日遅らせる。
- ・葉色が濃く葉身の乱れが目立つ・・・基準より5日遅らせ、2割減肥する。

生育に応じた対応方法	生育が早い、生育旺盛	生育が遅い、生育不足
幼穂形成期	草丈が長く葉色濃い場合は、穂肥を遅らせ減肥する。	生育が遅れているため、穂肥や基幹防除が早すぎないように注意する。

3 肥培管理 ～一発体系の上乗せ追肥～

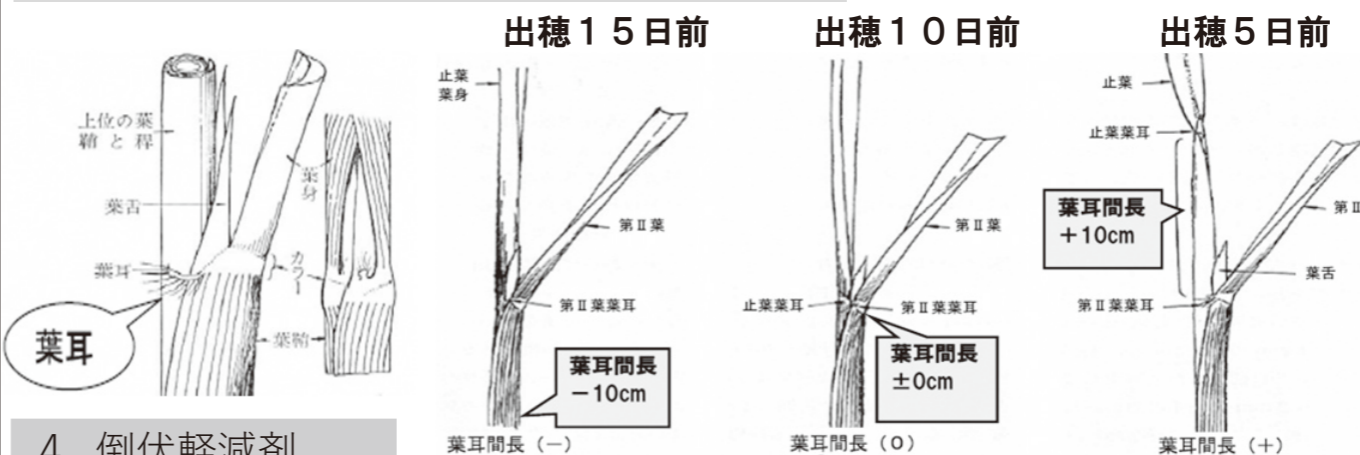
◎高温登熟が予想されるため、出穂前の葉色が淡い場合は、基肥一発肥料であっても上乗せ追肥を施用し、高温登熟による白未熟粒の発生を防ぎましょう。

「BB優米味R」

施用時期(葉耳間長)	施用量(kg/10a)	葉色
出穂7日前 (±0～+5cm)	9～10	ゆめみづほ：5未満 コシヒカリ：4.5未満

- ・ただし基肥に「早生一発くんDX28」「コシ一発くんDX24」を施用した場合は、上乗せ追肥は不要。
- ・昨年までの経過(秋落ち、大豆跡による基肥減肥など)や、今後の登熟期間の気象を踏まえて、実施を判断する。

◎葉耳間長による出穂前数の推定方法



4 倒伏軽減剤

薬剤名	使用量10a当り	散布適期	本剤の使用回数	注意事項
スマレクト粒剤	2～3kg	出穂20日～7日前	1回	湛水状態でムラなく均一に散布し、散布後5日間は湛水を保つ。散布後7日間は強制落水しない。
ビヒフル粉剤DL	3～4kg	出穂10日～5日前	1回	撒きムラや重複散布に気をつける。降雨直後や降雨が予想される場合は散布しない。

病害虫防除は適期を逃さず実施!

病害虫発生予報第3号（6月11日発表、農業試験場病害虫防除室）
紋枯病：多 前年発生ほ場・茎数の多いほ場で多発する可能性があります。
斑点米カメムシ類：やや多
7月上旬仕上げ除草&適期防除の徹底で、斑点米を減らしましょう!

5 令和8年度 白山石川地区雑草地カメムシ調査結果

6月下旬調査 42地点108カ所 ※平年値：過去10カ年の平均値

年次	シラホシカメムシ類	飛翔性カメムシ類				合計
	トゲシラホシカメムシ	クモヘリカメムシ	ホソハリカメムシ	カスミカメ類		
				アカスジカスミカメ	アカヒゲホソミドリカスミカメ	
R 8	0.04	0.94	1.00	11.81	13.80	27.58
R 7	0.30	0.22	0.28	6.84	8.72	16.38
対平年比	25%	235%	833%	358%	363%	372%

6 病害虫防除 ～随時防除～

稲こうじ病 } 常発地や前年に発生した地域は、防除を行いましょう。
 紋枯病 } 特に、ゆめみづほは紋枯病の耐病性が低いため、注意が必要です。

対象病害	薬剤名	使用量10a当り	散布適期	本剤の使用回数	注意事項
稲こうじ病	Z ボルドー粉剤 DL	3～4 kg	出穂15～10日前まで	—	使用時期：出穂10日前まで（遅れると薬害が発生する）
稲こうじ病・紋枯病	モンガリット粒剤	3～4 kg	出穂3～2週間前	2回以内	①水深3cm程度で、散布後4～5日は湛水を保つ ②使用時期：収穫30日前まで
紋枯病他	バリダシン液剤5	60～150L (1000倍)	出穂10日前まで	5回以内	使用時期：収穫14日前まで
	バリダシンエー	800ml (8倍)			

7 病害虫防除 ～基幹防除～（自己散布）

体系	散布時期	対象病害虫	薬剤名	使用量10a当たり	ゆめみづほ	コシヒカリ	本剤の使用回数	使用時期
粒剤防除	1回目	いもち病、カメムシ類、紋枯病、ウンカ類 他	イモチエーススタークル粒剤	3 kg	7月6日～10日	7月16日～20日	1回	収穫35日前まで
			ワイドパンチ豆つぶ	250 g			1回	収穫35日前まで
	2回目	カメムシ類、ウンカ類 ツマグロヨコバイ	スタークル粒剤	3 kg	7月20日～24日	7月30日～8月3日	3回以内	収穫7日前まで
			スタークル豆つぶ	250 g				
液剤防除	1回目	いもち病、カメムシ類、紋枯病	①ビームエイトスタークルゾル + ②バリダシン液剤5	①60～150L (1000倍) ②60～150L (1000倍)	7月20日～24日	7月30日～8月3日	①3回以内 ②5回以内	①収穫7日前まで ②収穫14日前まで
	2回目	いもち病、カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ	ビームエイトスタークルゾル	60～150L (1000倍)	7月27日～31日	8月6日～10日	3回以内	収穫7日前まで
	追加	カメムシ類他	スタークル液剤10	60～150L (1000倍)	8月3日～7日	8月13日～17日	3回以内	収穫7日前まで

8. 出穂以降～刈取直前までの水管理

- 出穂から開花期は、水分補給を目的に湛水状態（花水）とする。
- 開花期以降は、2～3日おきの間断通水により、飽水管理を行い、根の活力を維持する。
- 間断通水では、地温を下げる夜間入水が効果的。
- フェーン現象等の異常高温・強風が予想される場合はあらかじめ通水する。
- 少なくとも刈取3～4日前までは間断通水を継続し、高温登熟の場合は刈取直前まで通水する。

【お知らせ】農機センター休業日
 7/1～8/16の各土日祝は農機センターを休業させていただきます。
 また、8/11～8/16はお盆のため休業とさせていただきます。